



No. 48

川 舟 命 之 歎 之 言 言 之 事  
補 針 顛 小 三 賦 白 爾 之 苦 也  
四 後 焉 次 逢 人 之 下 之 歎 也 也

3145  
8



青砥藤綱摸稜案後集卷之四

東都

曲亭馬琴編述

二夫川の拾遺

孝子のふづらりて孝とせ人あまを稱して孝といふかあなる母。  
 学としてめい道稱ひをらびて功夫小等。身代立て名を後揚。  
 のて父母を顧と次孝の終といふこそ。されば蚕屋善吉の憂苦の中。  
 人とありて或は錦倉小漂泊。或はは廻路小流離ひか。到る所幸なく。  
 事と成さざるといふと。刺守の屋は應りて。舊里二夫へ立帰。村長。  
 うけのつて父の為小和を雪め。えうらび宿願を果と物う。上臺親子。  
 勤まへ。その隙を窺ふて笑の中。刃を隠し。耳を側目と張て。家へ入る。  
 失の六階きんと計較り。死かおさきとやく。猜せり。かふく。公に。







あてかきまよふ發跡を。まへ全く口をひさすの。福をわぬるふ。おん身も  
又かくるるべし。福のあれこそ不思議は縁と宿るるふ。あつるふおん身が  
憂るるあるは。昔れどとて樂いせんや。あはしむと。町噂小回をおん  
歎息し。るるるるの。あははは。噂々奇し。後をえて。ころよひり。ゆる  
く。そのるも。昔ねども。なやきええて。河も。回も。なは。何れ。匿ん。  
あつる。この。曉の。あつる。地方を。何れと。あつる。宿ども。ひより。曠野は。立在る。  
まんま。この。表面は。川ありて。枕川と。榜舟を。建する。この。川は。氷り。つ。積を  
盈する。どく。え。ゆる。ふ。おん。身。の。鳥。帽子。装束。し。し。と。遅。死。馬。は。騎。り。氷。乃  
上。馬。を。進。め。北。より。南岸。へ。拍。て。渡。え。んと。一。も。つ。氷。の。忽。地。裂。と。碎。く。  
水。二。條。は。流。ま。る。兩。箇。の。日。輪。水。中。より。閃。と。是。れ。出。亦。水。中。に。没。ると  
あて。人。馬。の。後。も。水。底。へ。沈。こ。も。ん。を。故。人。と。吐。嗟。と。叫。ぶ。こ。が。声。ふ。う。う。り

驚かして。学んたり。やうやく。口は。まよふ。胸の。領は。騷。る。痞。の。い。ま。ご  
活。づ。つ。く。と。あ。ひ。あ。は。れ。が。五。年。あ。ま。り。前。の。秋。お。ん。身。野。上。の。松。心  
る。古。廟。の。中。小。假。寝。して。如。此。の。夢。を。こ。ん。と。と。その。比。び。は。よ。昔。の。ひ。  
その。夢。と。又。この。夢。と。よ。く。似。る。了。そ。あ。や。け。し。曇。り。家。報。あり。今。又。い。つ  
る。禍。の。あり。の。や。と。さ。る。と。口。管。の。も。あ。つ。る。あ。つ。り。と。も。慰。め。難。て。回。る  
ふ。も。昔。の。や。と。あ。ひ。は。り。と。し。つ。又。昔。昔。も。肩。根。を。と。ら。せ。て。歎。息。する。あ  
五。臟。の。労。ま。ま。る。と。お。も。る。人。の。い。れ。れ。ど。彼。松。心。の。草。枕。終。り。一。夢。も  
正。夢。と。姨。と。阿。母。が。良。ぬ。所。為。よう。口。を。ひ。さ。す。も。この。里。を。遠。く。離。る  
象。の。り。あ。つ。る。ふ。今。亦。吾。妹。子。が。あ。ま。い。夢。と。ん。と。の。ふ。こ。れ。も。え。よ。の。り  
され。ば。後。に。死。る。の。後。せ。ど。人。こ。ろ。う。れ。と。祈。る。ぬ。の。死。後。を。報。ふ。何。れ  
あ。つ。る。ふ。今。亦。ひ。さ。す。と。慰。め。ま。て。や。う。やく。小。痞。押。さ。る。子。を。放。べ

東天... 日



空蟬 騾旅よ  
光棍よ勾引る

うせ

五



色村の  
何ぞ  
善吉  
元二  
あ

井輕元二

善吉

五

むしうろ言人の禍はあつるもあり。身は犯しける罪はして。みづから  
 頼むうもゆき。梓川のあるる。梓村の昔より。名する神子の  
 あるふあふさや。彼如へいもたてまを占う。その吉凶を問ふ疑ひの頭は  
 解て身は傍る禍のあつても禦ぐ後腐は。あるものあり。梓川の  
 言者うち點頭現れん身が宜ふとて。あつて物をとらんより。彼如もたて  
 まを占は。秘袂は清潔さ。つら身は則六根清浄。まを所の願とて。  
 成就せむといふとあけん。吾儕もつらもくべとて。まや立出んとまを  
 俄頃又結陰て雨の降る。春の嵐の殊更。面を向くべうもあふは  
 要時霽を待く。ややくあつて雲をさめぬ朗る。日の新は。西へ  
 傾きて中晡の遠う。袂どけふとて。ひらぬる。夜そがまあつて。ま  
 又遠く歩んとまれば。あふ外。面うち瞻仰。日影傾たけりぬる。小道乃

ぬりのいじく。暮るがことを候り。めけふの。陽の正う。明日  
 ぬれぬと。禁まが言者。つらと。梓村の二里は。近う。夜は。ま  
 暮るとも。月夜る。ぬれぬと。まを。と。りて。来んと。回答もあふ。木履の塵埃  
 うち拂ひ。忙しく。宿所を出て。只管。小まける。程は。醒井と。まや。過て。左に。遙か  
 えう。まが。今ぞ。入る。日の。夕照は。春の。暮。村暮を。免て。花は。宿り。といふ。ま  
 武士と。いふ。れと。従者とも。俱せむ。まを。向う。来る。客あり。近く。あつて  
 笠を。揚て。おれ。まを。言者。の。ま。と。呼ひ。けり。て。遠く。この。宿を。い  
 む。ま。は。是。則。別人。ある。ま。曩は。言者。が。化粧。坂。あり。比。佐。空。蟬。が。鳴。き  
 る。の。ける。二。階。堂。家の。若。黨。は。井。控。え。二。と。呼。ば。し。の。の。り。當。下。え。二。と  
 笠。を。脱。て。別。后。の。恙。ある。れ。を。祝。し。お。ま。の。曩。は。舊。里。へ。帰。り。ぬ。と。ま。を。い  
 つら。ま。な。んと。の。圖。さ。り。け。再。会。する。れ。とい。ふ。ま。言。者。小。腰。を。折。め。某。を。入

ありしより。五年よりぬき。世より小暇ありて。化縁ある長  
 とも。汎のむ。祢のむ。衣ありて。かく忙しく。只ひとり。何れへ。お  
 のろろ。ろろ。ゆと。結む。え。二。うら。点。改。され。ば。と。よ。和。衣。あ。も。る。ま  
 ぞ。五。兩。の。金。を。取。り。し。よ。う。強。顔。め。り。り。る。空。蟬。も。憎。む。は。欲。待。ち。の。う  
 あ。ふ。夜。の。数。も。あ。り。て。五。年。と。い。ふ。去。來。の。春。彼。が。年。限。満。ち。ま。は。せ。ま。て  
 家。は。健。ひ。婦。と。呼。び。良。人。と。呼。び。て。情。願。の。果。し。し。う。あ。る。る。は。彼。空。蟬。の  
 年。僅。六。の。夏。化。粧。坂。へ。来。よ。け。ま。ば。舊。里。の。も。の。へ。ま。ま。に。親。同。胞。の  
 名。と。ま。ま。に。但。獲。身。囊。の。中。か。多。賀。の。神。社。の。神。符。あ。り。て。産。砂。乃  
 お。ん。の。り。と。包。紙。に。書。つ。け。し。る。は。正。しく。親。の。子。蹟。る。べ。し。う。て。年。末  
 入。は。同。ま。多。賀。の。神。社。の。近。江。に。あ。り。特。は。名。さ。る。は。大。社。あ。り。て。給。ふ。べ。し。も  
 あ。げ。と。い。ふ。原。来。は。舊。里。の。近。江。の。多。賀。や。あ。ら。ん。ど。ん。と。い。ふ。

彼。知。り。赴。き。て。親。同。胞。の。環。會。し。よ。ま。が。も。欲。得。と。空。蟬。が。籍。寢。し。ま。ら  
 歎。け。げ。い。と。言。つ。つ。る。は。所。以。な。が。ら。彼。が。孝。の。痛。く。て。將。て。も。う。か。や。と。い。ひ  
 たら。東。間。の。温。泉。に。浴。せ。し。ま。し。し。て。主。君。お。百。日。の。暇。を。あ。り。り。  
 私。の。妻。を。携。り。て。鎌。倉。を。起。程。し。脚。湯。を。浴。せ。て。吾。妹。子。が。親。の。あ。い。し  
 け。い。る。お。お。ひ。ひ。の。あ。り。驟。雨。に。坐。せ。り。せ。ん。擔。も。み。妻。と。が。馬。に。乗  
 せ。り。馬。道。を。お。お。ひ。ひ。の。あ。り。し。ら。ん。や。く。し。し。は。先。づ。か。ら。ま。ま。ま。ま。の。追。続。し。と。て  
 喘。も。あ。ら。ん。黒。木。の。橋。を。こ。え。り。と。忽。ち。地。妻。を。失。ひ。て。追。い。ど。も。く。竟。に  
 沿。逢。せ。和。衣。今。あ。る。通。路。馬。は。多。く。東。下。り。西。へ。赴。く。婦。人。を。と。ん。ど。や  
 と。向。つ。も。の。拭。り。て。額。の。汗。を。お。拭。け。が。若。者。や。て。後。方。を。見。り。し。る。は  
 こ。へ。來。る。や。で。よ。馬。座。あ。る。人。を。と。ん。ど。馬。を。て。ま。ま。し。の。ひ。る。が。今。須。乃  
 驛。を。て。待。べ。し。は。彼。馬。夫。が。柏。原。ま。う。ら。こ。え。て。ゆ。く。と。う。か。そ。の。か。る。る。





成らばとも善吉を推倒す。熱腸を冷まけしむ。彼も此も残るく  
て靴を隔て癖を搔き湯をめて熟る。此止が如く。旁して切る。此も  
こそ。又彼善吉が。曩は鎌倉に赴きて。鞍の金糸獲る。此も  
女と又こそ日を送らん。某夫婦彼地へ赴き。一年あまり。拵る。此  
それ程の徳つた。その金下。び堂は。善吉は計らん。と。後乃  
物とある。易。そのあま。と。母。小膝を。めて。密結。の  
遅也。阿丑の。馮司の。額。と。て。ま。ま。と。笑。  
昌九郎が計策。後。得て。奇。う。叶。妙。う。この。は。母。糸。似。とも。一。奉。  
あて。奉。め。か。ま。ま。ま。ま。捷。経。み。と。終。の。准。後。ま。と。て。志。の。び。く。ふ。  
仍。装。を。整。と。と。月。と。下。つ。昌九郎の阿丑と。首。途。せん。と。と。行。ふ。  
この日の朝。う。猛。風。雨。烈。ま。抑。苗。せ。れて。後。よ。こ。り。の。あ。雲。時。時。  
ま。時。中。晡。ま。り。て。日。の。西。に。斜。ま。り。け。か。と。ま。ひ。ま。り。ぬ。の。の。を。  
あ。と。い。く。ま。く。の。ま。と。も。あ。ま。首。途。ま。と。の。ま。馮。司。遅。也。ま。こ。  
ま。ま。禁。め。と。春。の。日。ま。ら。目。今。う。栲。原。ま。ま。く。べ。人。ま。ま。ら。  
せ。ぬ。起。程。あ。ま。夕。ま。え。て。宿。所。と。あ。る。卻。是。後。宜。あ。り。ま。と。と。い。ま。じ。  
ま。昌九郎の阿丑の。も。あ。ひ。く。く。打。拵。て。背。門。の。か。ま。り。ま。り。  
ま。當。下。馮。司。遅。也。の。門。ま。ま。て。ま。ら。が。背。教。の。木。ま。ま。ら。ま。ま。で。  
ま。目。送。り。の。少。選。く。て。裏。入。り。遅。也。の。物。と。ま。ま。と。と。遠。く。馮。司。を。  
ま。び。ま。ま。馮。司。昌九郎が。懸。袋。と。遣。ま。ら。あ。ね。純。ま。ま。と。喧。げ。の。  
馮。司。の。ま。ま。ま。の。ま。懸。袋。の。旅。客。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。  
あ。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。  
遅。也。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。  
腰。刀。の。幕。と。ま。の。犬。威。し。糸。卷。鞆。の。ま。の。井。の。

成らばとも善吉を推倒す。熱腸を冷まけしむ。彼も此も残るく  
て靴を隔て癖を搔き湯をめて熟る。此止が如く。旁して切る。此も  
こそ。又彼善吉が。曩は鎌倉に赴きて。鞍の金糸獲る。此も  
女と又こそ日を送らん。某夫婦彼地へ赴き。一年あまり。拵る。此  
それ程の徳つた。その金下。び堂は。善吉は計らん。と。後乃  
物とある。易。そのあま。と。母。小膝を。めて。密結。の  
遅也。阿丑の。馮司の。額。と。て。ま。ま。と。笑。  
昌九郎が計策。後。得て。奇。う。叶。妙。う。この。は。母。糸。似。とも。一。奉。  
あて。奉。め。か。ま。ま。ま。ま。捷。経。み。と。終。の。准。後。ま。と。て。志。の。び。く。ふ。  
仍。装。を。整。と。と。月。と。下。つ。昌九郎の阿丑と。首。途。せん。と。と。行。ふ。  
この日の朝。う。猛。風。雨。烈。ま。抑。苗。せ。れて。後。よ。こ。り。の。あ。雲。時。時。  
ま。時。中。晡。ま。り。て。日。の。西。に。斜。ま。り。け。か。と。ま。ひ。ま。り。ぬ。の。の。を。  
あ。と。い。く。ま。く。の。ま。と。も。あ。ま。首。途。ま。と。の。ま。馮。司。遅。也。ま。こ。  
ま。ま。禁。め。と。春。の。日。ま。ら。目。今。う。栲。原。ま。ま。く。べ。人。ま。ま。ら。  
せ。ぬ。起。程。あ。ま。夕。ま。え。て。宿。所。と。あ。る。卻。是。後。宜。あ。り。ま。と。と。い。ま。じ。  
ま。昌九郎の阿丑の。も。あ。ひ。く。く。打。拵。て。背。門。の。か。ま。り。ま。り。  
ま。當。下。馮。司。遅。也。の。門。ま。ま。て。ま。ら。が。背。教。の。木。ま。ま。ら。ま。ま。で。  
ま。目。送。り。の。少。選。く。て。裏。入。り。遅。也。の。物。と。ま。ま。と。と。遠。く。馮。司。を。  
ま。び。ま。ま。馮。司。昌九郎が。懸。袋。と。遣。ま。ら。あ。ね。純。ま。ま。と。喧。げ。の。  
馮。司。の。ま。ま。ま。の。ま。懸。袋。の。旅。客。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。  
あ。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。  
遅。也。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ま。ま。  
腰。刀。の。幕。と。ま。の。犬。威。し。糸。卷。鞆。の。ま。の。井。の。

東三友子大後集卷之四

驛を投てど追つても。さる後昌九郎の婦を伴ひ起程あるべきやと  
とれど時移りて宿所を走り出する。日の向暮とせる。後昌九郎も  
いそいで。二十餘町走り。醒井のある。梓川の河よりか急流  
くくく。甲夜より。出で月ながら。天を赤結陰りて。朦朧とゆく。先  
も後。准後の続松とぞ。火を打んと。腰を撈ふ。燧袋の入り  
けり。さるつと。慌忙阿丑も。阿原も。この続松と醒井を  
買。また彼知。送。さるやあ。さるべ。阿原も。火を借らん  
家の。おん身。且く。お坐せ。いで。一き。さる。瞬間。よ。あ。ん  
さ。さ。喘々。今。来。踏。へ。引。さ。阿。丑。ひ。ひ。野。干。玉。の。夜。川。の  
風。吹。曝。され。只。沸。くと。吟。て。夫。の。海。を。待。り。ど。お。さ。る。さ。阿。原。乃  
北方より。荒男と。お。わ。れ。が。子。拭。り。て。面。を。畏。む。善。西。の。林。と。いつ。後。も。

一個の女子。猿轡を銜せり。河原を南へ引搦来て。砂の上へ撲地と推  
居。酒。や。喫。得。酔。けん。舌。も。さ。る。ぬ。声。と。う。ま。この。後。妻。の。響。の。剛  
さ。さ。も。あ。く。も。屠。野。の。羊。の。動。と。と。牽。て。や。あ。べ。頃。日。の。間。の。こ。こ。  
打。負。され。と。出。せ。ば。と。れ。せん。湖。る。さ。の。催。馬。夫。輕。尻。追。て。日。を。送。れ。が。  
皇天の人と。教。さ。げ。の。朝。雨。が。媒。妁。て。乗。り。と。ま。り。玉。と。その。後。間。道。へ  
外。と。伴。侶。ある。夫。が。う。ま。く。さ。る。さ。暮。て。物。を。胸。算。用。此。さ。る。さ。の  
さ。れ。と。三。年。後。の。直。の。る。の。貨。物。あ。も。あ。れ。と。さ。る。と。合。る。さ。の。や  
人。を。呼。ん。も。の。の。り。ら。ま。ぬ。猿。轡。か。う。う。た。身。を。外。ま。が。阿。丑。の。さ。る。も。さ。  
せ。て。よ。ま。ぬ。避。ん。と。あ。り。と。も。踏。と。陟。さ。一。條。の。河。系。の。隠。ん。曲。の。あ。  
い。ま。と。醫。士。と。牙。を。溜。し。昌。九。郎。が。あ。り。来。る。後。今。う。く。と。侍。と。の。さ。る。さ。  
男。の。伴。の。女子。を。引。と。る。と。さ。る。と。あ。り。と。も。右。の。さ。る。阿。丑。と。傳。と。ん。て。所。と。

東夷文正未及集卷之四

うらみ笑ひ。むらり抱いて又ひきり。顔へ定くふんえ存ども。身長のいふこと  
色白。夜の河原より只ひとり。立在の向てもある。き情もあふ身をたれん  
為り。さうさうさうと郎を侯醒井さうの故落物こそとて天より照り  
さる紙衣もびん却崇とうけん。逃るく。とさる菟て。襟上さみむと  
廻へ阿丑の吐嗟と叫びつ。振放さんと拵ども。鷹よ投る水鳥の汀渚小  
羽さく一生懸命。賊ありくと叫ぶあぞ。音もよそと引よさる。その  
際よ件の女子へ逃んとさる紙遣りもさる帯頭取て引のどをたれも  
あれ昌九郎の煙袋を索う糸火をのぞ借て取りす。阿丑が鎖り。賊  
ありと叫ぶ声は驚きさう。眼と続松と浪打際へ破落零と投棄。浪ん  
とさる荒男の足と飛くと昌九郎が膳と礮と蹴る。蹴られて山吉と  
仰さぬ。身を拵りて倒る。如へ喘々追菟まらる。馮司の心をもつては

等よ。さあわのとんてけい。矢をよ刀と拵り。踏こ。荒男をを只  
一刀と丁と替。刀尖狂ひくたひる。女子が腸五六寸。乳の上りけて  
砍倒せ。云ともなひのぬ末期の一句。今ぞこの世とさる。鏝けける。墮  
呼吸絶え。荒男のこの先宗も叫り狂ひて。沙と蹴立。命の綱もる。貨物を  
結果まで。彼も此も。目も抱えんと。小石を解きて。蟲のどく。投めし。バ  
馮司もさる。御免難頼を撲きて。倭儻と輾んと。ておのいども。倒ま  
りか子を蹂躪。昌九郎はつれ。先をひいて。引抜刃を拵りて。忽地  
身を起。跳菟て。荒男が小髻の際一寸あさる。砍れども。撃き  
厚哩と打落。腕取て。搦倒せば。阿丑の夫を救んとて  
荒男が畢丸を碎る。可楚とある。不意と有ら。碎り  
拵拵をひき。と昌九郎が。臥つ。拂ふ。刀尖

...



馮司

徳川幕府



昌九郎

お丑

徳川幕府

梓川の危難  
奸計と  
藤子

馮司もこよ力を裁。起んとする代。奴子して。段々不飲せむ。胸をこ  
刺さめて。三人吻息をつた。さて恙る死を故び。かえりぬ。まの荒東がひ  
つる。代阿丑少。て馮司の穴。く頭を撞死。あつた。違奴を勾引  
光棍少。て女子を掠奪たる。り。さる。紙口。と。恨て。その女子を殺す。と  
後よ。の。度。学。る。べ。い。い。と。とも。罪。腹。ま。が。じ。い。つ。ふ。せん。と。密。詰。の  
阿丑も。ま。び。く。嘆息。せ。めて。ま。の。勾。引。光。棍。の。息。を。ふ。か。す。人  
殺の料。を。授。け。す。も。あ。ん。よ。何。い。ひ。さん。も。死。人。を。登。掘。難。く。の  
こと。を。実。る。ひ。と。ま。ま。さ。る。人。の。死。を。幸。れ。れ。只。速。ま。ま。の。ま。を。  
を。り。も。い。と。い。そ。が。せ。ば。昌。九。郎。沈。吟。し。つ。つ。が。大。人。何。と。い。ひ。ぬ。某  
夫婦。夜。は。終。ま。す。と。遠。く。鎌。倉。へ。ま。る。と。も。後。日。よ。こ。の。り。や。あ。り。せ。ば。  
村長。よ。る。預。け。の。物。を。今。た。り。を。助。ら。んと。冀。ふ。と。も。生。か。さ。けん。

そ。も。か。く。も。鴟。の。嘴。く。ま。ま。は。粗。詰。バ。ス。後。と。も。馮。司。一。つ。は。  
す。や。叔。郷。へ。海。を。た。た。り。日。蔭。の。花。と。る。る。る。れ。憎。し。と。い。ひ。言。を。と。  
結果。も。悔。し。く。も。あ。い。ど。毒。を。食。り。血。ま。で。甜。と。と。世。の。常。言。の。い。ま  
ま。の。時。思。按。ま。う。え。て。ん。の。い。ど。や。と。い。ハ。馮。司。の。小。頭。を。傾。け。汝。が。異。見  
い。ふ。ぞ。や。と。問。う。問。も。昌。九。郎。の。人。り。や。ある。と。前。后。を。透。し。ら。が。め。て  
顔。を。あ。い。親。と。妻。と。ふ。耳。傍。に。さ。り。て。息。を。阿。丑。の。さ。り。る。馮。司。の  
ふ。く。感。佩。し。今。ま。ま。の。ぬ。計。畧。る。が。ら。ら。子。女。漢。朝。の。孔。明。も  
乃。び。が。し。汝。達。一。旦。牙。を。孫。ま。埋。木。と。る。ふ。似。れ。ど。吾。を。と。て。い。  
殺。し。ば。ば。ら。ん。多。賀。敷。を。こ。ら。て。世。間。ひ。ろ。く。ま。る。は。あ。り。と。い。ま。ま。を  
い。ひ。ま。ま。ば。よ。く。練。を。ひ。ひ。神。を。憑。て。か。て。撈。ア。ま。り。勾。引。光。棍。が  
頭。髪。を。纏。て。首。を。井。と。撞。落。し。川。へ。交。と。投。棄。ま。昌。九。郎。も。遠。く



ののふふ入年前より天の作孽とちの端て人をみうふみひと  
 慰めれつ慰めても物まうこら送れど。あなぬかゝるぬかゝるの  
 片あつらひ煙の蓋をとまて憂をよそ置炬燵春の夜更寒々  
 とも今宵のこゝろとまぬふ。ごご枕を引りて夫婦まう社の趾と首路  
 あけて臥せれど。いじく睡まざど既も曉方らうらうらてぬるも  
 目睡一ふ日のをやなうらうら。あなぬかゝるぬかゝるの音子  
 牙を起し。おひまづづ緑煩ある。雨戸をよやくと摺るがら。あな  
 石ふ血と踏著る草履の蹟あり。あなぬかゝるぬかゝるの音子  
 呼びて如く。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 聲め現ころぬぬのふ。昨日甲夜ふ庭門より。来ぬる人の  
 かいさうらるる。笑て牙ひらう。笛守とけけり。片は戸を引

どの角をゆく。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 あなぬかゝるぬかゝるの音子。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 草履を買つて。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 いと暗け。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 斬る。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 むら。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 つつ。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 胸を。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 寒て。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと  
 昔昔。あなぬかゝるぬかゝるの音子。いと昔くが昔も踏もふ行縁うらうら。いと



妻と禁ては言まはしは額を著牙夫犯せる科を亭主と人まふゆりやと  
 りせもあはど左右より眼を腫し声をぬりまをれ言言人あまふと  
 ともへはまど暗所は鬼神あり。明こところお王法あり。昨夜柱川のわたりに  
 干て男女兩個を砍殺しその頭を切りし。癖者へ汝あり。雅うまふ教えたる  
 男子の則舊の村長上臺馮司が子昌九郎女子の則その嫁丑といふ  
 のあるは。夜の色あてふぬるは。女の髪をむらりた髪を暗くを  
 ちとて多々殺入祥は祈せしむ。吾們こそと承り。犯人をまふ  
 未明より彼此を徘徊しとくはもてふ。裡のやと。國竊まは巻原  
 蹤血あり。汝が裳小鮮血を引り。まふれば。是問じてある。昌九郎お丑を  
 殺し。そののひはあり。腕とまふ。と。いふ。は。猛く。ひ。鮮ん。ま。も。あ。ま。を。  
 夫をよ。家。被。り。良人。携。り。ま。ま。と。は。く。妻。の。う。ま。の。事。表。衣。は。は。く。

二平の鮮血の紅今あつて血の涙は血を流す所人と嫉夫  
 ちる。證柳は科人あり。と決する。理する。れど。言言。性。と。て。人。を。殺。さ。す。も  
 け。は。は。その。な。の。箇。様。と。と。半。の。は。は。撲。地。と。倒。退。し。と。言。長。女。子。の。陳  
 附。それ。笑。く。連。つ。絶。て。ま。郡。司。の。ま。ま。を。た。び。び。も。の。め。と。い。つ。め。く。引  
 ち。れ。て。言。言。の。数。回。嘆。息。一。中。よ。あ。む。音。傳。犯。せ。る。罪。は。あ。ひ。ま。と。言。長。小  
 蹤。う。鮮。血。あ。れ。ば。ま。も。あ。つ。て。も。一。朝。よ。ひ。ひ。つ。と。も。ら。ひ。釋。が。じ。ま。ひ。ぞ。あ。る  
 言。長。今。の。う。れ。め。も。あ。る。く。は。あ。の。中。あ。る。あ。の。世。よ。雅。う。の。下。ま。び。び。あ。ん。だ。る  
 へ。と。数。る。ま。は。も。村。長。の。妻。と。り。た。乱。し。て。笑。ま。も。ひ。そ。づ。が。運。場。へ。今。生  
 みて。尚。あ。ふ。す。の。ま。ま。ん。よ。野。上。の。里。よ。身。を。寄。り。し。と。あ。ね。の。在。ん。だ。ん。  
 又。慰。む。よ。も。あ。り。ま。ん。け。は。母。の。亡。日。あり。飯。菜。忘。ま。の。あ。な。と。あ。る。村。あ。も  
 亡。親。の。の。ひ。迷。と。良。人。の。孝。を。戒。を。獲。る。科。も。仏。も。夫。婦。が。う。ま。の。あ。た。世

秋と多へいしと沸ゆる候ふ喫て回春のるせと袖小袂より嵐れど海あ  
 りて可責のせりしにね著ると蹴倒し蹂躪られても身とが厭はむ  
 門は素より柳髪庭の小松も今更まそなたのあまの千代の故この春の  
 日と猪のふ良人の命長くと祈るのまて代られどさけぬ標残一  
 つれ中後の音耗の片折戸小身を倚りても朝霞ひらり夫の背に  
 見えざるまて目送りて又潜然と泣はりかゝて縣兵士の音をさし  
 つまかへ赴き獲て文彦所へ引居てその報を報知りしと二响ありと  
 徑て郡司のややくと音を坪の内はゆ金と昌九郎阿互ホを教ふる  
 律の意趣とさぬれば善者僅に頭を擡小人愚直とて村者をひら  
 としく理義とさぬて後て下むの法度を犯すとえ外人を教へて  
 ゆくと個一裳は血を踏らる昨夕梓村より暮てしる梓川の上あり

いと物も跌されしと暗けしと楚とん怒と今更まひあはれしと  
 跌らる昌九郎ホが死骸をひひけんかまは彼ホを教ふる犯人の別  
 あじこれらの由を賢察あふ守の恩澤私の大幸只いふ由の形を  
 作るるとさるく額とらて稟ふと郡司のまを果すと諸膝推向て  
 丁とあまやとれ癖者汝辨言とらて辨くとも陳ざる所澄柳あり  
 人を教ふる所の澄柳あり只その裳のまらんや汝が庭の巻石も血を  
 踏著る足蹟ありと目今縣兵ホが報知る事の報を精とるふ裳巻  
 石も血を踏らる紙袋の昨夕のまを志す天のて下めて鮮血をん  
 妻のろとも不慌忙洗るがさんせしるおりの縣兵ホをん  
 ちとあまやとれ癖者汝辨言とらて辨くとも陳ざる所澄柳あり  
 同は言者又稟とらる鮮血を澄柳とらるおりの縣兵ホをん

裳をのりて人の破まじ。但小人が腰刀を返りてえをちかへば。おん疑ひの  
 釋ゆべ。加旃彼馮司の小人が祖父の身中て昌九郎と小人の再従方  
 ろう。その妻阿丑の小人が棄妻おいて。あるも後母女才より。姨遅也さ今  
 見上。上基馮司が家よりあり。かくちを係。親族をのや。一旦の恨ありとも。  
 見つうく。教さるべきや。素より恨さうもあはれ。形か彼ホを言出。同せ  
 ろつぐおゆるるん。とつて郡司へ冷笑ひ。物じてもるん。又とん  
 とも。おんんとも。それを汝も破んや。且馮司昌九郎ホも恨み。とは  
 いひがて。その釋つたふ。不殺さるせん。件の馮司の恨て法華堂の本を  
 代る科。ふりて。曩は村長を止れ。と。まを汝も比。温順して  
 守紙教ひ。慈悲おと人を愛せ。と。成りて里人ホも。竊お汝を。躊躇つて。  
 件の馮司が。持精のど。村長た。ん。ことを。成。へ。汝。あ。れ。を。い。せ。く。お。ひ。く。

恨と含む。まは二。又彼丑とや。ん。汝。お。婦。り。て。貞。実。あり。し。を。六。や。う。の。み  
 淫婦。お。え。く。え。ん。れ。む。ん。は。離。別。せ。れ。る。べ。己。と。汝。お。む。昌。九。郎。不。再。嫁  
 志。て。夫。婦。水。魚。の。お。ひ。と。る。せ。ば。汝。却。て。あ。ま。ら。ぬ。媚。之。恨。を。含。む。二。つ。  
 さん。この。故。を。り。て。馮。司。親。子。を。仇。せん。と。て。その。動。静。を。懸。意。ひ。昌。九。郎  
 妻。を。お。て。柏。原。へ。赴。き。ら。暮。て。帰。を。埋。伏。して。件。の。夫。婦。を。破。教。し。の。め  
 人。を。ま。せ。り。て。頭。を。隠。せ。に。疑。ひ。し。り。この。全。く。一。條。の。推。量。を。り。て  
 い。ふ。お。あ。ら。ぬ。郷。の。夥。兵。ホ。が。汝。を。搦。捕。する。も。紙。報。知。せ。し。を。疑。つ。れ。又。言。お。  
 馮。司。遅。也。ホ。を。返。り。て。汝。が。る。紙。報。志。し。事情。を。尋。ね。た。彼。ホ。が。稟。を。  
 と。ころ。是。の。如。し。この。癖。者。の。い。つ。て。言。さ。う。せ。ば。い。そ。その。實。を。吐。く。は  
 ぞ。く。と。下。部。と。ん。の。兼。り。と。意。づ。夥。兵。ホ。と。あ。ら。ぬ。言。さ。は。祖。の。

皮壞と肉爛と。鮮血液とと流して背を浸し心神既ち悩乱して若痛よ  
 えとむ。薄命の致と所従りくびひ鮮とも。燈柳のけし生ぐつむ。  
 愁よあふひて永く苦悩を受んう。そや死んと必ひ定め。霜枯野辺よ鳴  
 虫うらう。舟細れ声とて且く管を止めぬ。稟さばと叫びら。野兵をうら  
 絶て引起して水と只流死入るるどする程よ。あがらけしよ。あまも背疼て  
 りふへもあふ涙。まづく稟せと責れて。昔昔ややく跪き。既よまよせも今て  
 小人の阿豆昌九郎お恨まわ。うてその心と火埋伏。梓川の上まで件の夫婦  
 を砍殺。頭を川へ投入して。推流ゆひた。といふ。郡司のうら。長次郎もあふん  
 さこそあふぬ。馮司おがまう。は。あ。悉符合とて。かく。金右衛門をさうら。  
 馮司と違也を。お。お。言まが。首伏の意と。流志は。汝亦が。精を。あつ。む。む。も  
 う。い。で。馮司の。ま。ま。お。この。年。末。村。長。の。り。し。う。ひ。あ。て。い。と。願。望。の。も。は。ら。う。り。

謙断の意と。つむ。守。し。は。え。あ。げ。る。ま。ま。の。遠。う。夜。首。切。ら。る。べ。た。の。ぞ。この  
 昔ころゆゆといへば。馮司の額を著しとも。や。こ。れ。所。威。勢。ふ。う。て。た。ま。く。も  
 子。の。り。が。仇。を。獲。う。る。喜。の。中。の。喜。ひ。よ。ゆ。い。つ。つ。昔。言。を。信。と。ま。も。え。  
 世も早る。大自物。は。理。責。ん。の。ま。ま。益。な。れ。ど。汝。が。父。言。を。さ。ら。り。て。あ。り  
 ま。の。り。の。ま。つ。た。り。は。流。と。流。ら。う。る。ま。ま。汝。村。長。よ。な。り。し。う。り。面。を。背。物。の。り。む。  
 け。角。老。も。移。も。昌。九。郎。亦。を。殺。して。ひとり。世。ま。立。ん。と。計。殺。し。る。の。愚。る。も。ま。ま。  
 老。て。の。後。は。一。子。と。娘。と。ふ。妻。は。怨。の。後。骨。を。碎。れ。醜。よ。る。は。ま。も。飽。足。  
 ぐ。も。あ。ら。ぬ。り。し。と。巻。を。擦。り。齒。を。切。り。の。れ。ま。く。夫。の。後。方。う。り。違。也。を。流。  
 ぬ。我。ひ。任。る。舟。子。の。如。し。と。世。の。人。の。い。め。ま。ど。和。主。の。世。の。仇。人。の。娘。と。妻。と  
 理。る。も。逐。出。し。て。も。る。舟。飽。ぬ。曲。は。梓。川。の。夜。の。暗。死。王。の。女。四。つ。り。ま。ま。  
 姨。を。殺。さ。る。か。の。數。さ。ら。せ。り。物。さ。ら。と。る。殘。さ。れ。老。が。牙。雅。を。使。著。さ。る。か。の。

憎一形は。とやそこら。やうふ然ぞんた。言さす。ひを低て。二言の淨のど。その。死  
 郡司の夥兵。亦。言さす。立。して。後。く。直。獄。言。ま。な。り。也。馮。司。也。  
 身。の。暇。を。と。せ。て。若。賊。毒。婦。の。意。中。小。謀。を。や。り。ぬ。と。言。は。れ。た。二。天。  
 宿。所。へ。移。り。し。案。下。某。生。再。説。お。も。そ。の。日。多。ひ。ゆ。け。ど。言。さ。す。囚。且。下。  
 り。じ。下。り。只。泣。流。そ。す。ま。ま。速。く。野。上。へ。消。息。を。与。物。よ。又。の。本。を。さ。す。  
 ま。舟。く。も。も。か。る。時。大。郵。人。も。泣。け。を。憐。り。て。天。窓。の。蜂。を。拂。の。も。後。く。  
 入。務。も。来。ど。め。て。昔。と。り。入。る。け。し。づ。ま。ま。の。日。夜。暮。し。て。漏。れ。ぬ。ふ。  
 中。熱。人。と。し。の。め。が。こ。野。上。へ。書。り。し。ゆ。り。け。し。吾。備。み。づ。つ。り。言。は。れ。た。又。  
 ゆ。ん。と。ひ。定。め。て。その。夜。を。急。よ。立。あ。じ。覺。の。水。を。は。き。か。け。て。泣。き。し。り。り。  
 つ。良。人。の。為。ふ。神。よ。仏。亡。親。の。擁。護。を。祈。ま。す。牙。の。痛。む。を。さ。り。り。寒。さ。し。  
 如。月。の。梅。の。う。ら。も。不。夫。婦。が。運。を。極。ま。び。用。り。し。と。念。と。り。然。る。て。あ。る。

か。り。程。よ。天。の。ぬ。そ。と。し。う。疲。勞。甚。く。ば。あ。ま。且。く。内。は。入。り。て。更。ふ。  
 野。上。へ。ゆ。ん。と。て。准。儀。を。さ。す。程。よ。頻。り。門。を。敲。く。り。の。あり。矩。と。同。が。と。敷。  
 り。珍。者。ぬ。お。て。来。つ。つ。小。因。て。入。る。と。答。る。声。小。さ。う。と。な。り。六。八。慌。  
 忙。つ。き。り。ゆ。て。戸。を。あ。く。ま。と。と。想。ち。旅。客。の。う。ら。も。小。炉。辺。に。坐。と。た。て。  
 お。ち。し。對。し。か。ん。身。ゆ。そ。の。各。級。階。を。穿。け。ん。と。ま。ま。口。の。所。に。坐。す。あ。の。舊。主。の。  
 化粧。坂。の。自。眉。之。同胞。の。れ。も。志。づ。ん。と。合。さ。る。あ。ま。の。筆。外。後。く。音。鏡。  
 こ。せ。ご。け。不。彼。も。齒。傾。死。て。足。る。り。じ。く。ひ。お。お。昔。を。想。切。よ。郵。書。の。て。  
 凍。り。く。白。眉。俄。頃。よ。あ。ひ。も。と。と。つ。来。つ。疎。遠。を。勸。解。ま。し。福。由。  
 ら。い。ど。彼。も。親。の。遺。體。の。り。や。河。井。の。長。と。あ。る。と。も。昔。よ。終。て。る。業。  
 も。あ。ら。ん。今。茲。ハ。又。母。の。遠。忌。は。當。ま。り。勸。當。を。お。し。り。り。て。あ。ん。身。夫。  
 ぬ。あ。の。せ。ん。と。て。未。好。し。宿。所。を。出。て。外。月。も。え。せ。ば。い。ま。じ。来。ら。ん。と。

寛政十一年八月廿一日



郡司が悪兵衛等  
善吉を捕縛する

捕縛



兄弟再会して  
善吉を  
教へしむ

与教



昌九郎亦と教せしは。さるる音既お首伏して罪籍なるを定むるも。助  
ぐもあらず。秘と獄舎飯を遣ふ。その妻子のまよる。じとてまづ。この正とゆ  
えし。ふと物自肩のまりぬりて。おちよ縁由を告まじ。次の日飯を賣りて。三人  
多量の獄舎。おとせ。自肩又獄卒ホホ物少許つとせ。せらる。遂は昔をこ面  
め。さると然なる。痛ふ。ね言ま。日る。程経ぬ獄舎のまよ。ひも。昔の瘡ふ  
血を。衰へ。日。氣は。疎と。と。こ。へ。只。ひ。ろ。く。と。骨。立。て。消。え。ん。ま。の。玉。の。緒。や。  
要時へ。い。て。教。ま。す。て。さ。の。稱。名。お。弥。陀。の。お。む。釈。念。の。外。他。の。の。ま。た。よ。今。を。ら  
ども。妻。男。お。ひ。の。お。け。ご。相。摸。る。若。者。ま。さ。ら。お。は。し。る。い。ろ。く。と。を。ら。う。い。は。す。  
候。さ。し。て。違。は。ど。の。い。ろ。く。ま。る。向。ん。と。お。ひ。し。と。も。胸。が。ぐ。ら。お。の。ま。は。な。と。阿。と  
叫。び。倒。れ。ん。と。て。や。や。く。お。獄。舎。の。備。子。は。獲。ら。ん。と。ま。く。と。は。さ。の。ま。の。流。は  
狂。の。お。や。と。と。ご。彼。も。此。も。痛。け。ま。と。よ。お。の。こ。ろ。を。鬼。や。て。お。さ。と。い。て。叫。  
傲。彼。者。是。首。と。ん。お。ら。お。お。中。備。は。入。る。け。ま。が。昔。昔。火。刑。罰。の。此。度  
舍。身。自。肩。が。化。粧。坂。より。請。ね。ら。ん。且。と。ま。が。助。と。ゆ。て。辛。く。郡。司。の。評。を  
受。息。の。内。なる。對。面。さ。る。度。の。越。し。ら。も。な。く。若。ん。が。長。の。兄。と。居。ら。ん。辛  
草。味。遠。離。ま。兄。が。笑。顔。を。ら。う。ら。う。の。滅。す。り。て。人。は。な。ま。と。昔。昔。和。殿。ら  
賜。ら。れ。ば。一。昨。の。日。野。上。へ。着。て。足。さ。と。い。て。さ。の。未。明。は。言。ん。ら。ん。と。も  
二。夫。川。へ。お。た。て。向。は。不。慮。の。災。難。お。お。り。て。る。の。の。物。さ。る。ま。を。お。し。び。の  
驚。死。下。ま。の。憂。和。殿。の。妻。女。と。兄。と。お。と。ら。ぬ。お。の。智。恵。を。お。つ。て。さ。く  
や。や。く。飯。豆。せ。り。親。族。朋。友。の。評。さ。れ。ぬ。獄。舎。の。門。中。を。輒。来。て。物。の。お  
こ。も。過。世。より。結。び。解。と。ら。ん。只。何。ら。も。今。の。物。種。お。ひ。再。と。さ。る。  
黄金佛の利生をりて。四救ひま。ぶ。て。お。い。か。か。昔。昔。の。と。擡。代。程。程。も  
あり。と。た。果。敢。と。ま。死。は。も。を。ぬ。よ。厚。く。お。ま。せ。お。ひ。ら。る。ま。思。要。時。も

昌九郎

七三



忘るは世の経管の羈まて。再會たうらむけは。嗚呼かきくも  
同胞の和順のうらむせよ。やく速まきものひ。おんを操目まて。然くそ  
出られ。加禰某が必死を救ひもえとて。財帛を奪ひもふる。身あまそ  
有がう。言葉も速も竭せん。まらあんと罪多くて。罪よ死する。過世乃  
悪業るまぐへん。人かどて救ひが。うや又黄金佛の利生どて。首を  
繞るるあつとも。執念深まらに。親族する。阿丑昌九郎を殺せし。ふぬれ  
衣を乾すあつ。八十九の上。其のたうら。生延とも何ふせん。又覺悟  
死るとも。後よ犯人。殺覚て。汚名を雪ると。絶て恨めつと。難  
隨て死をあらせ。言の繁清。潔ま。國春。長兄と。弟と。同と。淫ら。感  
涙を坐ふ。拭ひぬる。あそ。おら。泣沈。死と。極め。ひ。男魂。あ  
べ。ほど。た。め。う。あ。わ。わ。人。を。殺。け。ぬ。と。と。り。遍。由。陳。ド

あつぬ。因。目。の。ひ。を。の。目。う。儂。ま。が。ん。や。四。日。昏。の。終。日。袂。を。絞。り。夜。を  
通。宵。若。難。を。執。り。我。の。神。垣。佛。場。百。度。の。猪。も。殺。喝。あ。ら。ぬ。ま。も。願  
言。の。叶。と。祈。る。難。が。為。ぞ。背。門。の。枯。木。常。あ。わ。る。鳥。の。声。を。穿。く。毎。お  
あ。ら。ぬ。も。あ。ら。ぬ。ぞ。く。死。ぬ。ぐ。の。昔。儂。ま。づ。あ。ひ。る。そ。う。て。死。ぬ。ま。死。わ。が  
こ。の。あ。ひ。も。あ。ら。ぬ。救。免。の。と。れ。と。あ。つ。た。う。その。松。心。と。白。眉。の。高。僧。の  
大。人。あ。ら。ぬ。と。氣。つ。た。と。ね。宣。ひ。を。め。り。時。よ。女。房。の。心。の。中。の。あ。ら。ぬ。  
と。あ。ひ。あ。つ。た。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。と。う。た。口。説。つ。地。獄。に。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。と。改。を。換。り。  
あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。の。直。か。よ。裳。衣。へ。鮮。血。を。踏。え。れ。昌。九。郎。亦。を。殺。せ。し。の。死。を。言  
あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。と。言。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。と。難。う。か。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。も。敵。め。の。親。族。る。り。殺。せ。る。  
の。死。の。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。と。知。り。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。と。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。  
重。く。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。日。月。城。を。照。し。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。人。を。殺。せ。を。殺。せ。と。あ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。と。も。助。り

るん過世の罪障滅せざる可責と怒りて陳ぶるもの。其の苦悶は人々  
一定の死を怖るぬはむらう。いと苦しい獄舎のさきひ音のこも  
阿鼻焦熱戒の叫喚大叫喚の地獄の冥外あるは只形にたき一目も  
たやく首と刎さして難苦汝助け多し福と。こころ仰ぐ就鳥の山佛乃  
利益と念ぶるもの。歎くは後世の障とあるん物をさるせむひそと脚  
がすいた速懐もさるひつら泣沈む松とと想も白眉も理りあるといひ  
うねて額も鼻とさるひむね。獄卒等もさるひ眼を睜り声をさう立汝亦  
飯と饋る来てるごそ尻の齧りくる。たや退治ふと叱られてと想白眉左右  
より。伏沈むおをと技掖獄舎の内とさう眠く。娑婆と冥土の群別濁ぬ  
涙の血盆は刀林えうりてゆるる三人六道の辻に凶鳥の声人をさるぬ  
草野犬の畜生道とと浅ちく。後路をたぐる。幼おせり。さる種小

と想白眉のおをと技て二天川村立ゆり。又さまぐ小商強さるり。  
とろく小言者が助命のと頼頼んもの言を駁より外おは「只い」びも。  
彼主従おのひりて。物十倍進せん。この外おすは「とて白眉の路費の  
金銭大く懐お披つ。その曠昏お又多かへゆるるとさるお相摸よりおて  
身より後者の野上おのりさる老人ひとり彼処へおれて暮るるがころ  
りとするお。と想も又りうさるお。もろがやと想ひが。おのの嚮おぬじより。  
さるぬと不悩る春又殊更お苦とて。夜引被さ臥されん。さるも又  
見放ちおぐりて。と想もさるお。さるお。白眉のこ遣りたり。さるのさる  
馮司遲也おと。さるお。小言者言派隔して竊に欲び。這奴りや首と  
刎さる。おとさる市小言者さると毎日さるおの申明亭小赴さる。梓の為  
伴と疑ふ。松とと想と。それが牙お化糞坂ある白眉といふの相違りて。

書夫... 七五

郡司主従は芭苜野進し、これ則言吉が死刑を經り、劍の妻子  
 小獄舎へいぢれて、對面とるる、此并さん。と傳へて、大は驚かされ、此の  
 妙なるもの、是の如くして、走り廻りして、飛千鈞の怨を解く、万方の愛を禁ず。  
 されば又、妻加茂、此を言ひ、此は負するも、例の孔見の形有る、たゞ、  
 囊中既よ、濁て、いふともせん、さば、さればとて、身と又、死んで、虚と日を  
 送らば、言吉の再生、枕安ら、わづら、か、けん、所詮、這奴亦、言加茂、  
 赴くを埋、伏して、矢、庵、懐るる、物を奪ひ、いさ。これを郡司主従、進じて、  
 言吉、此結果、いさ、ま、捷徑、とて、竊、遅也、と、商、談、その、曉  
 昏、小、馮、司、の、子、拭、り、て、面、を、果、こ、言、吉、が、應、門、よ、本、か、り、て、内、の、中、を、  
 目、今、白、眉、の、長、が、令、駭、懐、中、て、妻、加、茂、へ、赴、く、言、吉、竊、聞、こ、ん、く、な、く、  
 ひ、さ、う、笑、て、彼、ら、先、へ、走、り、抜、搦、賊、巔、を、待、待、種、日、の、ん、や、暮、ま、て、人、跡、希、  
 かく、さ、の、ま、ら、び、白、眉、の、言、吉、救、つ、と、さ、の、ま、で、外、日、由、せ、と、歩、の、運、び、と  
 い、そ、せ、と、も、搦、賊、巔、を、越、る、と、生、憎、日、の、入、ら、つ、馮、司、の、遙、よ、これ、と、さ、の、  
 かく、本、産、を、出、て、め、ら、ら、み、や、り、り、足、を、飛、て、破、と、蹴、る、さ、の、れ、も、白、眉、の  
 こ、ろ、を、め、ら、る、老、人、を、ま、あ、左、へ、過、退、ら、る、蹴、ら、れ、ら、る、も、言、吉、は、倒、ま、  
 かの、盜、賊、と、高、く、叫、び、て、杖、を、り、て、斃、んと、さ、の、ま、馮、司、の、豫、て、縛、り、る、近、属  
 信、濃、路、ら、の、山、下、へ、來、て、入、り、ま、面、を、認、る、荒、平、霜、平、と、い、ふ、野、伏、を  
 僱、ひ、つ、要、索、の、時、の、方、人、よ、ま、り、さ、の、件、の、野、伏、あ、の、白、眉、の、後、方、より、忽、ち、お、と  
 きた、り、左、衣、の、腕、を、楚、と、含、め、さ、の、れ、直、ま、身、を、沈、ま、振、放、と、焦、燥、  
 馮、司、の、ゆ、ら、と、白、眉、が、懐、へ、入、り、入、て、金、残、さ、る、奪、ひ、い、さ、足、不、信、と、  
 去、あ、ぞ、白、眉、の、ま、ま、怒、之、腕、を、断、接、わ、ら、短、刀、を、閃、て、野、伏、を、破、ら、ん、と  
 さん、が、跡、を、も、え、ま、を、逃、亡、さ、る、統、て、追、入、の、易、け、ま、も、賊、の、三、人、は、れ、も、草、  
 葉、

かく、さ、の、ま、ら、び、白、眉、の、言、吉、救、つ、と、さ、の、ま、で、外、日、由、せ、と、歩、の、運、び、と  
 い、そ、せ、と、も、搦、賊、巔、を、越、る、と、生、憎、日、の、入、ら、つ、馮、司、の、遙、よ、これ、と、さ、の、  
 かく、本、産、を、出、て、め、ら、ら、み、や、り、り、足、を、飛、て、破、と、蹴、る、さ、の、れ、も、白、眉、の  
 こ、ろ、を、め、ら、る、老、人、を、ま、あ、左、へ、過、退、ら、る、蹴、ら、れ、ら、る、も、言、吉、は、倒、ま、  
 かの、盜、賊、と、高、く、叫、び、て、杖、を、り、て、斃、んと、さ、の、ま、馮、司、の、豫、て、縛、り、る、近、属  
 信、濃、路、ら、の、山、下、へ、來、て、入、り、ま、面、を、認、る、荒、平、霜、平、と、い、ふ、野、伏、を  
 僱、ひ、つ、要、索、の、時、の、方、人、よ、ま、り、さ、の、件、の、野、伏、あ、の、白、眉、の、後、方、より、忽、ち、お、と  
 きた、り、左、衣、の、腕、を、楚、と、含、め、さ、の、れ、直、ま、身、を、沈、ま、振、放、と、焦、燥、  
 馮、司、の、ゆ、ら、と、白、眉、が、懐、へ、入、り、入、て、金、残、さ、る、奪、ひ、い、さ、足、不、信、と、  
 去、あ、ぞ、白、眉、の、ま、ま、怒、之、腕、を、断、接、わ、ら、短、刀、を、閃、て、野、伏、を、破、ら、ん、と  
 さん、が、跡、を、も、え、ま、を、逃、亡、さ、る、統、て、追、入、の、易、け、ま、も、賊、の、三、人、は、れ、も、草、  
 葉、



それをも物号ごごの岐岨の櫛塵を焦ぬべし。さうもても白地よ。お六  
 あの昔は。渠この件の。狐吹く。入一層の憂。昔は。あつて。長は。病者。あ  
 り。の。やせん。さう。なる。も。と。義。よ。晋。む。兄。を。舟。に。携。へ。あ。つ。つ。二。夫。へ。を。り  
 む。り。て。の。ま。ま。あ。も。あ。ら。わ。る。べ。し。昔。昔。が。助。命。の。王。狐。を。愛。成。へ。を。ま。じ。し。て。  
 物。野。進。進。せ。し。不。快。く。受。も。ひ。し。る。大。く。く。を。復。り。ぬ。べ。し。さ。う。易。く。あ。ひ。ぬ。人。  
 と。ま。じ。し。や。る。の。慰。ま。が。お。ら。せ。を。身。と。起。て。思。入。水。を。拜。ら。う。些。の。病。も  
 お。こ。り。け。り。お。こ。と。と。お。と。白。眉。と。襟。一。あ。せ。ら。る。れ。ば。次。の。日。又。お。さ。あ  
 り。や。う。け。ら。れ。た。身。の。熱。き。も。う。く。え。ぬ。ら。ふ。れ。も。又。假。蘇。民。よ。く。来。て  
 日。ご。ろ。強。さ。る。婢。た。だ。の。さ。う。か。と。さ。う。なる。く。さ。ら。ぬ。べ。し。よ。う。て。け。ら。れ  
 白。眉。を。お。て。野。上。へ。ゆ。り。翌。日。未。明。と。又。来。る。ん。に。細。く。の。ま。り。さ。る。と。も。人。も。あ。ら  
 ひ。さ。う。あ。じ。も。と。さ。う。を。お。さ。せ。す。も。あ。は。れ。と。二。さ。う。の。阿。翁。さ。う。の。丹。城。り。て

助。が。お。ら。れ。良。人。の。命。た。さ。う。く。二。夜。の。勿。論。百。夜。も。寂。寒。と。い。ふ。ひ。を。度。  
 と。く。ぬ。り。ぬ。ら。ぬ。と。勅。る。も。痛。け。し。と。昔。ぬ。実。の。か。城。お。こ。と。と。く。ぬ。ら  
 ぬ。と。帯。結。び。え。え。白。眉。の。長。を。い。さ。が。立。て。野。上。を。投。て。走。り。つ。つ。わ。く。く。の  
 既。二。里。は。て。柏。原。か。と。う。く。憩。茶。店。あ。れ。が。死。さ。り。白。眉。と。密。山。中。り。り。  
 家。を。信。じ。と。奴。相。譚。人。程。子。莊。客。と。お。け。り。ぬ。が。暮。を。脊。負。盆。を。引。捲。三。人  
 い。さ。が。い。げ。ぬ。醒。井。の。か。え。過。る。あり。茶。店。の。老。女。を。い。さ。が。て。長。久。寺。の  
 杖。を。さ。ら。ぬ。奴。り。さ。う。の。入。尻。う。ら。め。け。て。憩。ひ。ぬ。茶。を。飲。む。と。ゆ。ま。は。り  
 後。る。二。個。が。立。出。り。け。ら。れ。妻。の。小。野。の。衛。衛。刑。罪。人。の。ゆ。が。被。の。近。こ。ろ。  
 梓。川。で。親。族。る。男。女。を。教。へ。さ。う。の。の。ご。と。よ。う。く。妻。を。う。り。夫。は。指。さ。り  
 只。今。彼。外。へ。来。ぬ。ぬ。り。お。こ。と。と。回。答。も。果。ご。追。続。ん。と。そ。ま。き。去。り。と。お。の。長。を。首。を  
 あ。つ。て。己。の。ん。く。首。を。い。け。今。中。の。清。ある。と。教。へ。さ。う。り。彼。外。へ。赴。け。て。い

遺言の地獄の火の炎の送懐。秀のどのつとせむ白眉の麻片を渡ら  
さる五條の二丈川へまのりてこの火の原を女流のふれぬ哀傷の世  
次と掉ちたその性雄くけんも原を女流のふれぬ哀傷の世  
自害のほどとんとんと痛くはるるるる。後にはあつとて今も  
逸さばとて黄泉の障りとありぬ。まじして蓋るるるる。後には  
とも遅かじと禁まへ白眉の有理とて後にもあつとて今も  
つれ間道のとてとて喘く小野の衝衝と走りぬるる。とて今も  
と教白眉のゆりしり。骨の後のとんとんと。とて今も  
肉動る胸裏とてとて平るる。とて今も  
未の比及よひより門辺まじりておろす。とて今も  
目が出るる小雨あり。定めぬ世の形とるる。とて今も

あつとて今も。糊張の夜の跡のころ。門の板戸おひをひけて入ると  
おろそかれ里の総角牛うら童が五人入つれとて番場のめえま  
ほ。七よとあつとて。この小文が小野の衝衝とて今斬る。とて今も  
ゆびひけてゆく背教とてとて吐きと目送り。とて今も  
と轉輾バ弗と断離る。鬚緒の雲の鬚鬚乱る。とて今も  
降る驟雨の面とてとて岸破と起つ小膝を衝きて目上よりあつとて。とて今も  
毛はつとあつと。涙と共よかた捨て。肩揺ちと息を吐き痛く哉。とて今も  
松山白眉あつと。の翁の戒も終よとて。とて今も  
られぬあつと。夫婦の癡情の石とて。とて今も  
三千世の憂とて。とて今も  
臥撃のとてとて。とて今も

遺言の地獄の火の炎の送懐。秀のどのつとせむ白眉の麻片を渡ら



